

校内現職通信

第2号 R元.11.1発行
文責 勿来一中現職担当
(滝澤)

令和元年度 勿来一中現職研究テーマ

主 題：確かな学力を身につけた生徒を育成するための学習指導のあり方

副主題：思考力・判断力・表現力を育むための指導方法の工夫

(仮説)

①基礎・基本的な知識及び、技能の習得を図る学習指導の展開

②基礎・基本を活用して、思考力・判断力・表現力を試す場を設定したり、言語活動を実現したりする場を設定し、指導方法を工夫する。

<事後研修会、こんな風にやっています！>

授業実施日当日の放課後、実施します。

→参観された先生方全員の参加をお願いします。

① 授業者から、自評(前時までの取り組み・本時に身につけさせたかった内容・教師の意図など)を話してもらいます。

② 授業に対する質疑応答(参観者の感想も含めて)を行います。

③ 研究テーマと授業内容の関連性を話し合い、より効果的な指導方法を模索します。

※ 研修会を通して、授業者だけでなく、参観された先生方の日々の実践に使えるヒントが1つでも見つかるような話し合いができればと考えてます！

国語(佐藤先生)・英語(松本先生)・理科(滝澤)・特別支援(木村先生)の授業で事後研修会を実施します。

授業後の研修会より・・・ →報告が遅くなってしまいましたが・・・

理科：滝澤 (3-3)・・・10/7 (月) ③



<授業者の意図と授業の様子>

課題に対して、話し合い活動で計画した各班の実験を試行錯誤しながら行い、「思考力・判断力・表現力」が身につけていけるようになってほしいと考えていましたが・・・

各班で相談しながら、よりよい実験データがとれるように繰り返し試行する意欲的な姿が多くみられました。ただ、「まとめ」に関しては、苦しかったです(汗)。

<参観して頂いた先生方から>

○ 1時間の見通し・条件の指示がしっかりとされていました。

○ 課題を精選し、生徒がまとめにたどり着ける評価にすべきである。

※ 1時間の中で、思考力・判断力・表現力のどこに焦点を当てて生徒に活動させるのかの意図をはっきりさせられる授業作りが大切だと感じました。

(今回の授業内容なら自由な試行を通して思考させる?・・・)



先週の授業実践より・・・

社会科：高桑先生 (1-2)・・・10/21 (月) ①

<生徒の積極的な授業参加って?>

課題の提示後、自分自身の考えをまとめる時間を十分に確保していました。「ヨーロッパの国々の統合の理由と課題」という難しい課題でしたが、1/3～1/4の生徒が何とか自分の考えをまとめていました。

※ 思考力をつけさせるためには、一人の力でじっくりと考える時間の確保(授業中でも)が大切であると感じました。

※ 他の教科の授業でも同様な時間を繰り返し確保していくことにより、主体的に課題を解決しなくてはならないと生徒自身が感じ、自分の考えをスムーズに書ける生徒が増えてくるのかなあと思います。

計画的な授業提供、参観して頂いた先生方、ありがとうございました！

★次号では、今週実施の先生方の実践を紹介させていただきます★